

知性なき政治家の乱暴狼藉を嘆き憤る

2015/10/28

須田 稔

知性が枯渇したのか、もともと微弱なのか、安倍晋三首相自身も大臣諸氏も、瑕疵が問題になった自民党国会議員も、情けないほど知性欠乏症患者にみえる。かく言う僕の知性は充分か。分析が必要だ。そもそも「知性」とはどういう意味なのか。

『広辞苑第六版』は、「①頭脳の知的な働き。知覚を元にして、それを認識にまで作りあげる心的機能。②〔心〕広義では知的な働きの総称。狭義では、感覚により得られた素材を整理統一して認識に至る心的機能。」

『新明解国語辞典第五版』は、「物事の理屈が直ぐ理解できる能力。理知。」

白川静『字通』は、「本性を知る。〔孟子、尽心上〕其の心を尽くす者は、其の性を知る。其の性を知らば、即ち天を知る。其の心を存し、其の性を養ふ。天に事（つか）ふる所以なり。」講釈して欲しい哲学である。

J・C・ヘボンの『和英語林集成』（1886年刊）

には見出し語にない。

『研究社和英大辞典』（1965年刊）は、intellect, intelligence, mentality の3語をあげる。『ロングマン現代英英辞典』（桐原書店・1987年刊）で、それぞれの解説を邦訳すると、intellect は「感じる、あるいは行動する、よりは」理性の力を使う能力。知的に考え理解する能力。「intelligence は「学び理屈づけし理解する能力。mentality は「精神の能力とパワー」。僕流に言うなら、「知性」とは「事物の本質を理性的に認識する力」ということになる。

原発再稼動と海外輸出を促進しながら福島原発事故の収束と被災者救援には怠慢なまま、規制委員会を含む原子力マフィア。辺野古に米軍の新鋭出撃基地を造成し、武器輸出を拡大し、核兵器禁止で先導的役割は果たさず、同盟深化を推進する軍産複合体、そして国民には知る権利と表現の自由を抑圧する。

こういう政治を良しとする人びとに知性はあるのか、と問いたいのだ。

ジョージ・オーウエルの『1984年』に、党の真理省の三つのスローガンが太字で書かれている。「戦争は平和なり 自由は隷従なり 無知は力なり」だ。

『広辞苑』は、「無知」を「知識が無いこと」と解説するが、僕は「事物の本質を理性的に認識する力がないこと」と定義しよう。フランシス・ベーコンが「知は力なり」と言ったらしいが、「無知は力なり」は、人間理性と理性的認識力を否認することにほかならない。安倍政治は「無知は力なり」の実践なのだ。独裁暗黒政治の実行なのだ。

無知と暴力は親和力で繋がる。安倍政治は暴力的である。辺野古に米軍の新基地を提供しようという件で、知事・議会・県民あげてのオール沖縄の悲願を、無法にも足蹴にして、主権者国民よりも米国の政府と軍産複合体に奉仕することを金科玉条としている。

権謀術数を駆使して、法的にも道徳的にも、無論、物理的にも精神的にも、醜悪な暴力を操作している。

キング牧師が1967年4月4日にヴェトナム反戦演説の中で、「社会の向上よりも軍事費に毎年多額を費消する国は、精神の死滅に近づいているのです」と語り、「今日の世界で暴力の最大の調達人である私のアメリカ政府」と指弾して、丁度一年後、1968年4月4日に暗殺されたのだったが、自公政権は辺野古基地を強引に造成して、沖縄県民を愚弄するだけでなく、みずからの人間性を崩壊させるのだ。

原発の再稼動について 官房長官は15日、「世界で最も厳しいといわれる水準の規制基準に適合する」から動かす、と言った。世界一精鋭の基地で抑止力に貢献するから辺野古に固執するのだ、と言うのだろうか。

「テロリスト国家の親玉」（米国の知の巨人ノーム・チョムスキーのことは）アメリカとの同盟深化は、日本を『ならず者国家』にするだけだ。無知と無法と暴言の暴力政治は「ひとでなし」「人非人」。